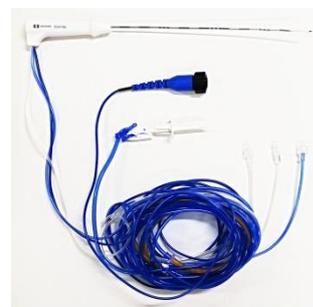


●治療の対象 当院では、以下の患者さまに肺RFAを行っております。

- ・外科的手術リスク（高齢、心肺機能低下、全身状態不良など）が高い方
- ・外科的手術も放射線治療も希望されない方
- ・出血傾向のある方（血小板数5万以下、PT-INR1.5以上）



ラジオ波電極針

●治療のメリット

- ・手術に比べて、身体への負担が小さい。
- ・短い入院期間で治療が受けられる。（最短1泊2日）
- ・施行当日より、食事も歩行もできる。

※一時的な気胸と出血はありますが、術後には元にもどります。

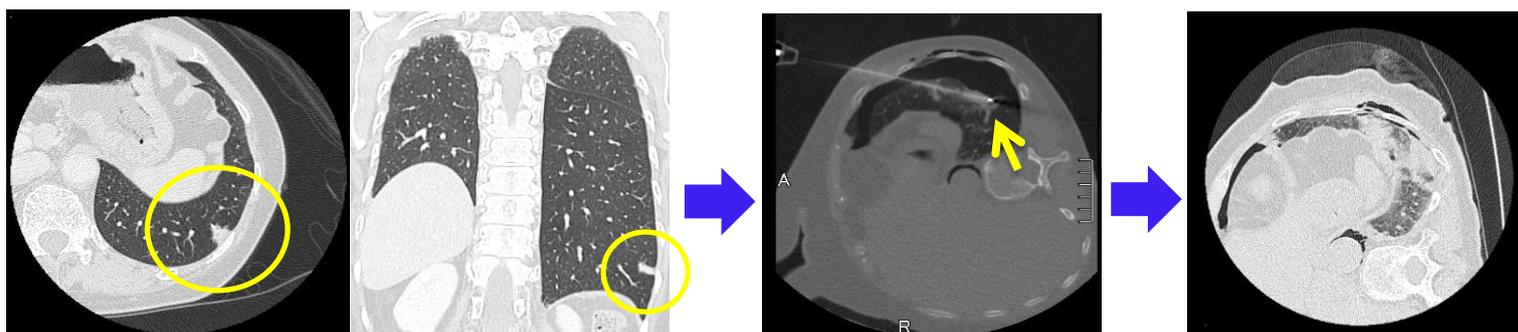


ラジオ波発生装置

●治療の実際

患者さまには、まずCT台の上に仰向けもしくはうつぶせで寝ていただきます。CT装置・透視装置を駆使し、リアルタイムでCT画像を観察しながら電極針を病変に刺入します。その後、腫瘍を焼灼して死滅させます。焼灼の時間は、肺がんの大きさ、位置、形態により異なりますが、小さい病変では数分間です。治療の際は、電極針の刺入部に局所麻酔、静脈注射より鎮静・鎮痛剤を使用しますので痛みは軽度であることがほとんどです。

【画像】



肺がん（CT画像）

焼灼中（CT画像）

焼灼後（CT画像）

●治療成績（I期の原発性肺がんに限る）

- ・対象期間は、2009年1月～2018年12月にて、I期の原発性肺がん（27症例、30病変）に対し施行しました。（※全例、術前にCTガイド下肺生検にて肺がんを確認）
- ・性別は、男性12例、女性15例。
- ・平均年齢は、76.6歳（58～87歳）。
- ・治療平均時間は、37分、術後平均在院日数は、2.2日。
- ・治療後の全生存率は、1年後（96%）、2年後（92%）、3年後（88%）。